

SONORAで 新たな技術革新を

瞬報社写真印刷株式会社



耐刷性、品質共に全く問題ないと判断してSONORAプロセスフリープレートに全面切り替え。現在はTRENDSETTER Q800 SCUプレートセッターで月平均4,000版を出力し、菊全17胴体制の印刷部門に供給。

130年以上の歴史を誇る「技術の瞬報」

山口県を拠点に活躍する瞬報社写真印刷株式会社の歴史は、文明開化から間もない明治15年、市況日刊紙の発刊を目的に創業した活版印刷業「瞬報社」の時代まで遡ることができる。以来「顧客本位」「誠意懇切」「斯業の革新」を企業理念に、トップクラスの印刷技術を誇る総合印刷会社へと大きく成長してきた。山口県下関市に本社・工場を、山口市にはグループ企業の瞬報社オフリン印刷株式会社を、東京、福岡、北九州、広島には支店・営業所を構え、一般商業印刷から出版印刷、美術印刷まで幅広い仕事を手がけている。近年では地元山口県の活性化を図るため、地域イベントやサイト運営などセールスプロモーション事業にも力を入れている。専務取締役の藤田育夫氏は、同社の歴史は技術革新の連続だったと次のように語っている。

「従来の現像有りプレートより耐刷性が向上したのにはびっくりしました。現像という不安定要素もなくなり、以前の環境に戻ることは、もうできませんね」

「継続は力であり、継続には革新が必要です。昭和30年代には海外で学んだアルミ平凹版によるカラー印刷技術をいち早く確立し、技術の瞬報の名を全国に知らしめました。その後もCTPの導入、高精細FM印刷、環境保護印刷など、先進技術を積極的に取り入れて、品質にこだわるお客様の要望に応えてきました」



専務取締役 藤田 育夫 氏



常務取締役 島木 浩則 氏



美術書やカタログでSTACCATOを活用



DTP 課次長 宮本 真成 氏



印刷課課長 杉谷 信治 氏



菊全判 8 色両面兼用機

無処理版の動向に注目し SONORA をテスト

同社が初めて無処理版に関心を持ったのは ISO14001 を認証取得した 2005 年のこと。KODAK THERMAL DIRECT ノンプロセスプレートを使って E3PA 環境保護印刷を確立するためだった。当時の状況について、常務取締役の島木浩則氏は次のように話している。

「ISO14001 の認証取得を契機に、当社でも環境保護印刷を確立しようという気運が高まりました。しかも挑戦するのであれば、最高ランクを目指そうと刷版も現像レスの THERMAL DIRECT を使うことになりました。おかげで無事 E3PA のゴールドプラスを認証取得できました」

ただ従来の現像有りプレートから THERMAL DIRECT に刷版をすべて切り替えるには、印刷の難しさを不安視する現場の声などもあって時期尚早だと見送っていた。それでも現像という不安定要素がなくなれば、印刷品質は格段に安定すると考え、無処理版の開発動向に注目していた。それから 10 年を経た 2015 年 4 月、コダックから新しい無処理版を紹介されテストを開始した。それが「本当に待ち望んでいた」と藤田専務が語る KODAK SONORA プロセスフリープレートとの出会いだっただけでなく、

テストでは現像有りプレートを超える耐刷性を発揮

同社が行った SONORA のテストにおいて、最も心配したのが重版の仕事だった。美術館の図録や作品集など品質要求度の高い仕事が多い同社にとって、刷版を変えても従来と同じ品質で問題なく刷れるかは大きな課題のひとつだった。このため約 1 年間、納得ゆくまで徹底したテストを繰り返し行った。さらに耐刷性についても気になっていたと印刷課課長の杉谷信治氏は次のように話してくれた。

「従来の現像有りプレートでは、紙との相性が悪いのから 6 ～ 7 万枚しか刷れない仕事がありました。無処理版になれば、耐刷性はもっと悪くなるのではないかと心配していました」

しかし、この心配は無用だった。同じ仕事を SONORA で試してみると、版交換なしで 12 ～ 13 万枚の耐刷性を達成した。「現像有りプレートより耐刷性が良いという、この結果にはびっくりしました。また重版の問題も含めあらゆる課題もクリアでき、導入を決断した」と島木常務は振り返っている。

17 胴 3 台の印刷機に月平均 4,000 版を供給

テスト開始から約 1 年が経った 2016 年 6 月、同社は使用している刷版をすべて SONORA に切り替えた。現在、本社工場では 2 台の KODAK TRENDSETTER Q800 SCU プレートセッターが、LED-UV 機と 8 色両面兼用機を含む菊全判 17 胴 3 台体制の印刷部門に SONORA を月平均 4,000 版供給している。杉谷課長は SONORA の印刷適性について「水幅が広く、水が絞りやすい」と高く評価している。「刷りにくく、水が安定しなかった」THERMAL DIRECT と比べ、その性能は格段に向上したという。KODAK STACCATO スクリーニングによる高精細印刷でも「キレイがいい」と評判だ。その一方で CTP 工程でのメリットを指摘するのは DTP 課次長の宮本真成氏だ。

「廃液処理費用が削減でき、薬品購入費用も含めれば年間約 80 万円の削減効果が期待できます。それ以外にも、現像液の維持管理や、3 カ月に 1 回の清掃作業などオペレータのメンテナンスに関わる作業負担も大きく軽減できます」

一般的に無処理版は生産性が落ちると言われているが、SONORA ならその心配もない。確かに出力スピード自体は若干低下するが、現像時間がゼロになるのでトータルでの生産性は全く変わらなかったという。万一の備えとして残してある現像機もすでに使うことはなく、「以前の環境にはもう戻ることはできない」と島木常務は断言する。CTP、STACCATO、THERMAL DIRECT、SONORA と続いてきた同社の技術革新の側には、つねにコダックが寄り添っていた。これからも同社の発展と革新をコダックが確かにサポートしてゆくだろう。



瞬報社写真印刷株式会社

代表取締役社長：藤田 良郎
 本社：〒752-0927
 山口県下関市長府扇町 9 番 50 号
 TEL：083-249-1100 / FAX：083-249-1021
<http://www.shimpou.co.jp/>



コダック ジャパン

<http://www.kodak.co.jp>
 〒140-0002 東京都品川区東品川4-10-13 TEL.03-6837-7285(営業代表)
 大阪：050-3819-1266 名古屋：050-3819-1265 福岡：050-3819-1270
 仙台：050-3819-1255 札幌：050-3819-1250